

ゴッホの

人生を

たどろう

La commémoration des 125
ans de la disparition de
Vincent van Gogh



Vincent

ギニア発行の切手（2015年発行）
ゴッホが亡くなって125年を記念して発行

1. きっかけ

ぼくのしょう来のゆめは、画家になることです。ゴッホやモネ、カユボット、スーラなど、好きな画家はたくさんいますが、心の病とたたかいながら、色々な描き方をためして、絵を描きつづけたゴッホの生き方がすごいと思いました。ゴッホの絵はカラフルで、かわった描き方も多いですが、デッサンもたくさんあります。ぼくは、ゴッホのみかをもっと知ってほしいと思ったので、調べることにしました。

2. ゴッホってどんな人？

名前 フィンセント・ファン・ゴッホ

生まれた国 オランダ

かぞく 父、母、弟2人、妹3人

父は、ぼくしく(キリスト教のせいしゅの教えをみんなにわかりやすく伝える人)でした。4才年下の弟(テオ)と仲が良く、テオはゴッホが絵を描くことにしゅう中できるように、お金を送ったり、せいしん的にサポートしてくれました。のこっている900つう以上の手紙のうち、テオあての手紙が600つう以上あるそうです。

左：オランダ領カリブ海の島国「アルバ」で発行された切手

右：オランダでゴッホが亡くなって100年を記念して発行された切手



1853年 オランダのフロート・ズンデルト出生
怒りっぽいため、大人は手をやいていた
こん虫好きで、よく標本を作っていた

1866年 人づきあいが苦手で学校をやめる

1869年 おじが営む絵画を売買する店ではたらく
と
1876年 明るかたが、好きな女性にふられ、おちこ
み仕ごとが手につかずクビになる

1877年 ぼくしを目指してベンキョウする

1879年 教し、ベルギーでキリスト教の教えを広
める活どう、たくさんの仕ごとをするが、
どれもつづかなかった

1880年 弟(テオ)のすすめで、画家になるときめる

1881年 いとこのアントン・マウフェから絵を学ぶ

オランダ時代

1886年 フランスのパリで、弟(テオ)とくらす

パリ時代

印象派の画家たちと出会い、新しい技
法や色合いを学ぶ

日本のうきよ絵にむ中になり、も写したり、
あつめたりしていた

1887年 画家のゴーガンと出会う

1888年 画家イ中まといっしょに絵を描いてくらすことを
ゆめ見て、フランス南部のアルルでゴーガン
とくらす

アルル時代

1888年 ゴッホとのかんけいがうまくいかず、不安定になり、自分の耳を切りおとす

1889年 アルルの近くの町 サン=レミのせいしん
サン=レミ時代 びょういんに入いんする

1890年 パリの近くのオーヴェールという町で、
い者の治りょうをうけながら絵を描く
オーヴェール時代 7月27日、ふくぶにじゅうだんを打ちこんだ状態いでき宅、2日後 弟(テオ)に見守られながら亡くなる。

ポイント 10年の画家人生で、2000点以上の作品を描いたが、ゴッホが生きている間に売れた絵は、たった1枚。1888年、ゴッホがアルルに来てすぐに描いた「赤いぶどう畑」というイ作品でした。



スツと頭に入るゴッホの世界
旺文社、2025年、P.85

ゴッホが亡くなった後 弟(テオ)のつま(ヨニー)が、作品をアムステルダムに出して、たくさんの人に見てもらったり、手紙をまとめた本を出はんしたこと、ゴッホの交友かんけいも知られるようになりました。



おとうと
フィンセントの弟

テオドルス・ファン・ゴッホ
あしやう
(愛称テオ、1857-1891)*1



いもうと
フィンセントの義妹

ヨハンナ・ファン・ゴッホ=ボンゲル
あしやう
(愛称ヨニー、1862-1925)*1



おい
フィンセントの甥

フィンセント・ウィレム・ファン・ゴッホ
あしやう
(愛称エンジニア、1890-1978)*2

*1Credits of the photos: Van Gogh Museum, Amsterdam (Vincent Van Gogh Foundation)

*2©:unknown

ポイント

ヘレーネ・クレラーという女性
は、ゴッホの作品を気に入っ
て、夫の協力をえながら、250
点以上の作品をあつめました。
1938年、オランダと交渉して、
ゴッホの作品を中心とした
「国立クレラー=ミュラーびじゅつ
かん」をせつ立しました。これ
でゴッホの評価が高くな
たと言われています。



左がヘレーネ、右がアントン
© Photo Archive Kröller-Müller Museum



クレラー=ミュラー美術館 外観
© Kröller-Müller Museum/ photo: Jannes Linders

大ゴッホ展 夜のカフェテラス
ジュニアガイド より

3. ゴッホが描いた絵

オランダ時代



鎌で草を刈る少年
(1881年)



白い帽子をかぶった農婦の顔
(1884~1885年)



女の頭部
(1885年)

ポイント

- かげが強調されていて、暗い色が多い。
- のう村ではたらく人がモデルとなった作品が多い。
- はたらく人へのあこがれがあったのでは？

パリ時代



RETRATO DE PERE TANGUY
VINCENT VAN GOGH 1853-1890
NICARAGUA € 3.00

ペール・タンギーの肖像
(1886~1887年)



VASO CON CLAVELES Y OTRAS FLORES
VINCENT VAN GOGH 1853-1890
NICARAGUA € 1.00

花瓶のカーネーションと他の花
(1886年)



VASO CON ZINIAS Y GERANIOS
VINCENT VAN GOGH 1853-1890
NICARAGUA € 1.50

百日草とゼラニウムのある花瓶
(1886年)

The GAMBIA D1

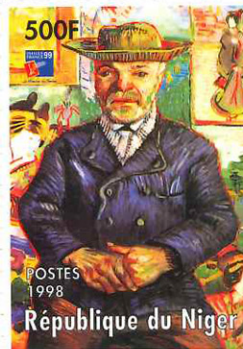


赤いグラジオラスのある花瓶
(1886年)

The GAMBIA D12

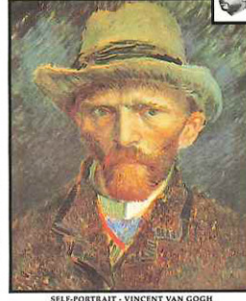


モンマルトル (1886年)



タンギー爺さんの肖像
(1887年)

The GAMBIA D3



灰色のフェルト帽をかぶった自画像
(1886~1887年)



AUTORRETRATO
VINCENT VAN GOGH 1853-1890
NICARAGUA € 0.50

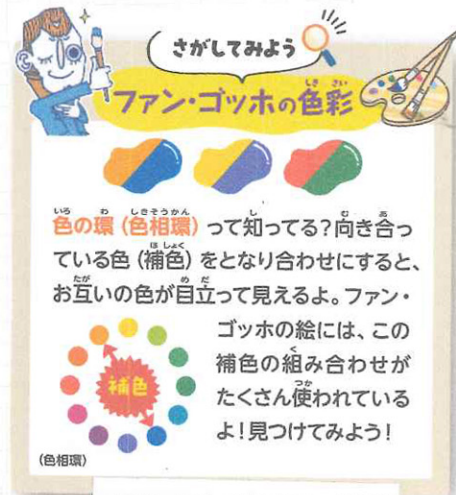
自画像 (1887年)



花魁 (1888年)

ポイント

- 印象派のえいきょうを受けて、明るい色や新しい技法を使うようになった。
- 色相かんの「ほ色(向き合っている色)」をつかうことで、色が目立って見えるようにしていた。
- 日本のうきよ絵から、大たんな色づかいや、線をくまりに描くようになった。(そのころのフランスでは、日本の文化がリゅう行していた)



大ゴッホ展 夜のカフェテラス
ジュニアガイド より

アルル時代

ひまわり
(1888年)



EL HOMBRE TUERTO
VINCENT VAN GOGH 1853-1890
NICARAGUA € 0.25

片目の男の肖像
(1888年)



ラングロワの橋 (アルルの跳ね橋)
(1888年)



アルルの女
(1888年)



アルルの老婦人
(1888年)



花咲く桃の木
(1888年)



夜のカフェテラス
(1888年)



包帯をした自画像
(1889年1月)



花咲く果樹園
(1888年)



糸杉に囲まれた果樹園
(1888年)



サント・マリーの白い小屋
(1888年)



海辺の漁船
(1888年)



夜のカフェ
(1888年)

ポイント

- 「ひまわり」「夜のカフェテラス」など、ゴッホが好きな黄色と青色の組み合わせが多い。
- 「ひまわり」は7作品あり、東京のSOMPOびじゅつかんでは、5作目の「ひまわり」を見ることが出来る。(2作目も日本にあったが、せんそうでやけてしまった。：あしやのひまわり)
- 生きている間に売れた絵「赤いぶどう畑」を描いている。
- 耳を切った後の自画どうは、そのぶ分が見えないように、全て左を向くようになった。

サン＝レミ時代



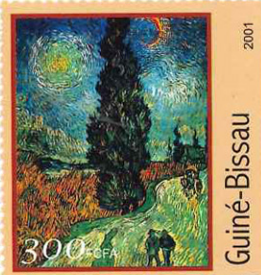
アイリス (1889年)



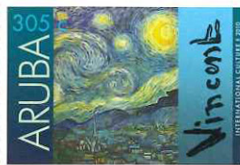
糸杉 (1889年)



フィンセントの寝室 (第3作)
(1889年)



糸杉と星の見える道
(1890年)



星月夜 (1889年)

ポイント

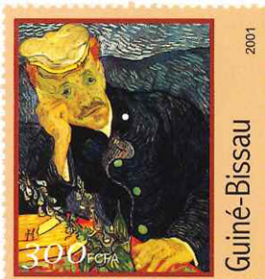
- びょういんのにわの植物がモチーフの作品が多い。
- 「糸杉」「星月夜」のように、うねった筆がかいが多い。
- 同じ絵を何まいも描いて、大切な人たちにおくっていた。

- ゴッホをサポートしていた弟(テオ)に息子が生まれ、おいおいする絵を描いたが、めいわくをかけているのではないかと不安になっていた。

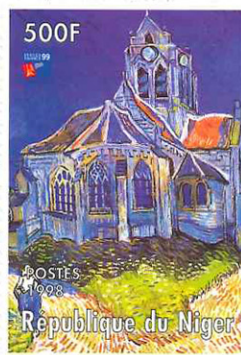
オーヴェール時代



カラスのいる麦畑
(1890年)



ガシェ博士の肖像
(1890年)



オーヴェールの教会
(1890年)

ポイント

- 亡くなるまでの70日で、100点以上の作品を描いた。
- 医者(ガシェ)と仲がよく、肖像画も描いている。
- 空を黒に近い色で描いた作品もある。(死をイメージ)
- 色づかいも筆づかいもいろいろ

4. おすすめのびじゅつかん

① SOMPOびじゅつかん

新宿にあるよ!

日本で「ひまわり」を見られるのはここだけ♪



ひまわり (1888年)

SOMPO美術館「コレクション」より

<https://www.sompo-museum.org/collection/#anc01>

② 国立西洋びじゅつかん



ゴーガン、ピサロ、ドガなど
いろいろな画家の絵が見れるよ♪
上野にあるよ♪



ばら (1889年)

国立西洋美術館ホームページ「作品紹介19, 20世紀 (第二次大戦前)」より

<https://www.nmwa.go.jp/jp/collection/1959-0193.html>

③ アーティゾンびじゅつかん

4作品を見ることが
できるびじゅつかん♪

「にしん」など暗い色
が多い作品から「花」や
「モンマルトルの風車」の
ように明るい色が多い
作品も見れるよ。



花 (1886年頃)



鯨 (1886年頃)



モンマルトルの風車 (1886年)

アーティゾン美術館ホームページ「コレクション検索」より

<https://www.artizon.museum/collection/search>



おまけ



2025～2026年、2027～2028年
の2回に分けて大ゴッホ展がかい
さい! ぼくも上野で見てきたんだ!



だんだん色づかいがかわ
てたよ。おすすめ～♪

5. おすすめの本

① ぼくはフィンセント・ファン・ゴッホ



作:林 綾野(はやし あやの) 絵:たんふるたん
講談社 2017年発行

- ゴッホが「ぼくは…」と話しながら、本がすすむ。
- 絵本で読みやすい。

② 天才芸術家ものがたり フィンセント・ファン・ゴッホ



文:ベネディクト・ル・ロアレ 絵:ピエール・ヴァン・オーヴ
監修:古川 萌 訳:松枝 恒典
中央公論新社 2023年発行

- ゴッホの人生がわかりやすくのっている(いつ、どこで、どうしたかが書いてある。)

③ やさしく読めるビジュアル伝言己(ゴッホ)



文:山本 まさみ 絵:オズノユミ
監修:園府寺 司 株式会社学研プラス 2019年発行

- ゴッホのことをもっと知りたいときはこれ!!

図書館で
もさがしてみよう!
ぼくもかいてるよ

④ スッと頭に入るゴッホの世界



監修:園府寺 司 昭文社 2025年発行

- 大人むけの本かも...
- 50作品がくわしく書いてある。



6. まとめ(かんそう)

ゴッホが「炎の画家」とよばれるようになったのは、アメリカの作家アーヴィング・ストーンが書いた「炎の生涯」という伝記が映画になったことがきっかけです。

ゴッホの人生をしらべてみると、すごく大変だったと思います。それでも、絵を描くことが好きで、「この世界はすごい」ということを伝えたいから描きつづけたパワーは、本当にもえる炎のようだなと思います。

ぼくは、たくさんの人に、ゴッホにきょうみをもってもらいたいと思っています。「いいな…」と思う作品があったら、どうして描いたのかを知ってほしいです。そうすると描いた時の気持ちも知ることができて、もっとアートが楽しくなります。

この自由けんきゅうで、ゴッホのことを知りたくな、アートで楽しそうだな、と思ってもらえたらとてもうれしいです。

おまけ(ゴッホが知り合った画家)



ゴーガン ベルナール ロートレック



ぼくが描いたよ！
この画家たちは、パリで出会った仲間。

